

第Ⅱ部 令和2年7月豪雨

【令和4年度分】令和2年7月豪雨に関する北九州市の支援状況

(令和5年3月31日時点)

《人的な支援》

1. 職員の中長期派遣【危機管理室】 3名

(1) 福岡県大牟田市

福岡県市長会からの要請を受け、道路・河川等の復旧業務に従事する土木職員2名を派遣。(令和2年9月14日～令和5年3月31日)

- ・ 道路、河川等公共土木施設の復旧業務（土木職）
令和4年4月1日～令和5年3月31日

(2) 熊本県人吉市

全国市長会からの要請を受け、都市公園災害復旧業務に従事する土木職員1名を派遣。(令和2年4月1日～継続中)

- ・ 道路、河川等公共土木施設の復旧業務（土木職）
令和4年4月1日～令和5年3月31日

令和2年7月豪雨被災地への中長期派遣職員報告

[派遣分野、活動期間、所属名（補職名）、氏名]

(頁)

1 大牟田市（公共土木災害復旧業務）

活動期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日
補職名 危機管理室 危機管理課
氏名 門見 晋作

2 大牟田市（公共土木災害復旧業務）

活動期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日
補職名 危機管理室 危機管理課
氏名 江上 誠治

3 熊本県人吉市（公共土木災害復旧業務）

活動期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日
補職名 危機管理室 危機管理課
氏名 加藤 忠

大牟田市災害復旧支援活動報告

派遣先 大牟田市 都市整備部 災害復旧対策室
所属 危機管理室 危機管理課
氏名 門見 晋作
活動期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日

1 はじめに

東日本大震災や熊本地震の際に、短期での被災地支援の経験はありましたが、長期での派遣の経験はありませんでした。当時、被災地の職員の方々に多くを教えていただき、学ばせていただきました。東日本大震災から10年が経過し、いつか恩返し出来ればと思っていました。なかなか踏み出せませんでした。今回、同じ県内の被災地のお役に少しでも立てればと思い、被災地派遣に応募し、従事することとなりました。

2 復旧状況

令和2年度、3年度の豪雨により被災した公共土木施設（道路・河川等）については一部工事を除き、令和4年度末をもって完了しました。また、被災直後に設置された災害復旧対策室も復旧・復興が一定程度進んだことから、令和4年度末をもって解散となりました。

3 現地での活動状況

大牟田市では災害復旧対策室に配属され、派遣期間中の主な業務は過年度に被災した河川の復旧工事の設計・積算及び工事監督を担当しました。

私の一年間の活動状況は以下のとおりです。

名称	工期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	工事概要等
沙井川河川災害復旧工事 R3年災(公災)	R4.3.24 ～ R4.7.1				7/5 検査・竣工									工事延長L=5m ブロック積A=18m ²
大字権野地区水路災害 復旧工事(その1-1) R2年災(単災18号)	R4.6.7 ～ R4.10.4			6/6 契約				10/14 検査・竣工						工事延長L=31m ブロック積A=59m ²
大字岬地区水路災害復旧工事 R2年災(単災29号)	R4.7.9 ～ R4.10.31				7/8 契約				11/22 検査・竣工					概算数量発注方式 工事延長L=14m 自由勾配側溝L=11m
大字久福木地区水路災害 復旧工事 R3年災(単災5号)	R4.8.27 ～ R4.12.5						8/28 契約			12/2 検査・竣工				工事延長L=18m ブロック積A=30m ² かごマットA=20m ²
大字権野地区水路災害 復旧工事(その3) R3年災(単災38号)	R4.9.29 ～ R5.1.16							9/28 契約				1/26 検査・竣工		工事延長L=8m ブロック積A=32m ²
大字上内地区水路災害 復旧工事(その6) R4年災(単災10号)	R5.1.13 ～ R5.5.19											1/12 契約		工事延長L=45m ブロック積A=128m ²

図 業務スケジュール

令和4年度は令和2年度、3年度に比べると甚大な被災が無かったことから、1年間を通じて、落ち着いて業務に取り組むことができました。また、CADでの図面作成も初心者でしたが、大牟田市職員の方などが丁寧に教えていただいたことから、最低限のコマンドを駆使することで、赴任前に想像していたほどのストレスは感じず業務に取り組むことができました。

しかしながら、北九州市とは工事の設計変更のやり方等にも当然ながら違いがあるため、少し戸惑った部分もありました。そのため、個人的な思いは伝えましたので、改革派である担当主査の実行力に期待したいと勝手ながら思っています。

大牟田市の勤務で驚いたことは、被災箇所の復旧にあたっては、職員自らが現地を測量し、図面作成を行うことを日常的に行っていました。私も自らの担当箇所において、市役所入職後ほぼ初めて自身でレベルにて測量をし、図面作成、数量計算書作成・積算、工事発注・監督を行いました。竣工した際には、初心を思い出すとともに、レベルの据付け方法すらも忘れていた自分自身が少し恥ずかしくなりました。

私が担当した工事の一部写真を掲載します。

写真－１（完成）



着工前



竣工

4 日常生活

宿舎近辺にはドラッグストアや大型のショッピングセンターがあったことから、自転車を購入することで、快適に生活することができました。毎週末は北九州市に帰省するなどし、リフレッシュしながら1年間を過ごすことができたと思っております。

5 さいごに

これまでに派遣された職員の方々も書いていましたが、災害査定の実検等を他自治体の職員と協力してやり遂げることは自身の技術力向上等に繋がると思います。そのため、庁内における職員の1次募集では若手職員に絞るなどの工夫があってもいいのかもしれませんが。

最後に、災害復旧対策室立ち上げ直後からの出来上がったコミュニティになかなか溶け込むことはできませんでしたが、私にとって大きな転換点となる1年であったと感じております。こんな私を大牟田市職員及び福岡市からの派遣者などの皆様が温かく見守っていただくとともに、設計等に際しては様々なアドバイスをいただきありがとうございました。以上で私の活動報告と致します。

大牟田市での災害復旧支援活動

派遣先 大牟田市 都市整備部 災害復旧対策室
所属 危機管理室 危機管理課
氏名 江上 誠治
活動期間 令和3年4月1日～令和5年3月31日

1 はじめに

令和2年7月梅雨前線豪雨により、大牟田市では公共施設（道路・河川）や農業施設（田畑・農道・水路）に甚大な被害が発生しました。

令和2年9月に北九州市の土木職員の派遣が始まりました。災害査定の時期には4名、工事施工時期には2名と、令和5年3月31日に大牟田市の災害復旧対策室が解散されるまで、延べ9名の土木職員が派遣されました。また、本市の他にも、福岡県、福岡市をはじめ福岡県内10自治体から職員が派遣されました。

私は令和3年4月に赴任して、2年間、農業施設災害復旧の設計発注及び工事監督業務等を担当しました。大牟田市の令和2年度災害復旧工事は、令和3年度に始まり、令和4年度上期に100%が完了しました。

令和3年度、令和4年度にも集中豪雨（7日間の降雨量が1,000mmを超える）が発生しました。小規模ではありますが、河川護岸の崩壊及び道路路肩の崩壊が発生し、災害復旧工事は令和4年度末には完成しました。また、私有地等のがけ崩れも多く発生しましたが、がけ崩れ対策事業も行われ、ほぼ完成しています。

2 災害復旧事業の概要

○農地・農業用施設等災害復旧事業（補助事業）

農地	工事箇所	25ヶ所、	農道	14ヶ所		
水路		22ヶ所、	ため池	4ヶ所		
頭首工		12ヶ所	計	77ヶ所	工事金額	341百万円

○農業施設単独災害復旧事業（起債）

工事箇所 20か所、事業費 42百万円

○公共土木施設災害復旧工事（補助事業）

工事箇所 57ヶ所、事業費 417百万円

○公共単独災害復旧事業（起債）

工事箇所 64ヶ所、事業費 約500百万円

○災害関連地域防災がけ崩れ対策事業（地がけ事業）

工事箇所 12か所



位置 福岡県大牟田市
箇所/手鎌地区
災害名 令和2年7月豪雨
発生年月日 R2.7.5~8
工種 河川・頭首工
復旧前



復旧中



復旧後



位置 福岡県大牟田市
 箇所／上内地区
 災害名 令和2年7月豪雨
 発生年月日 R2. 7. 5～8
 工種 水路
 復旧前



復旧中

工事名	大牟田市上内地区農業用排水改善工事業（令和2年度）		
工種	土工	測点	2工区
No.1			
機械掘削状況			



復旧後

3 現地での業務

災害復旧対策室は第1担当係（農地・農業用施設担当）と第2担当係（公共土木施設）があり、副室長、主幹、主査、そして担当者は第1係が6名、第2係が10名、コンサルタント3名で業務を行っていました。

私は、農地・農業用施設の災害復旧工事の設計、起工及び現場管理を担当し、設計→地元協議→災害復旧事業承認申請（福岡県筑後農林事務所）→起工発注→現場管理などを行いました。

4 印象に残ったこと

当初設計は設計コンサルタントに業務委託を行いますが、大牟田市では職員自らが、設計会社が作成した設計図をJWCADで修正し、数量計算書なども自ら修正しています。本市では、CAD（製図ソフト）を使うことがほとんどなく、CADが使えない私は苦勞をしました。設計書作成システムは、福岡県及び市町村が使用している「明積7」というもので、本市の積算システムとは異なり、慣れるのに時間を要しました。

設計書の審査は「精算」と呼ばれ、精算1、精算2と職員2人が審査を行い、その後、主査が審査し、最後は課長が審査を行います。チェック体制にかなり力を入れていましたが、個人的には、災害復旧なので、「設計から起工までもっと時間を短縮できれば」と思いました。

入札については、地元業者が少なく、農業用施設災害復旧工事は工事金額が小さく、現場条件が悪く利益率が低いことから、不落・不調が多くなったと思います。

地元対応では、大牟田市職員と一緒に土木委員及び農業従事者への対応を行いましたが、簡単ではありませんでした。地元関係者との調整が十分にできていなかったことで、工事施工中の苦情が発生したり、工事発注までに時間が掛かったり、工事入札の不成立が多くなってしまいました。また、情報の共有が十分でなかったため、手戻りやミスもあったと感じています。

災害復旧工事が完成して、住民及び農業関係者に感謝されたこともあり、努力したことが報われたと感じています。また、新型コロナウイルス感染症が確認されて3年になりますが、幸い本市の職員2名は、最後まで感染せずに派遣期間を終えることができました。

5 業務を終えて

令和3年4月に赴任して、2年間大牟田市の職員の皆さんと楽しく仕事をさせて頂きました。また、地元関係者との調整、工事発注時の県等との調整、工事施工中の施工業者との調整、工事完成後の検査機関との調整には助言及び指導をいただき感謝しています。

最後に、令和2年度10月に派遣された北九州市職員は、深夜まで災害補助申請作業を行い、大変苦勞されたようです。災害補助査定後は工事発注の設計業務が行われ、その後、私は工事監督と設計業務を担当しました。

災害補助申請については、大牟田市職員の多くは初めての経験であり、大変苦勞されていたそうです。他都市の職員派遣の目的の一つは、災害補助申請の経験を積ませる意図があったと思います。その後に行われる設計発注と工事監督業務については、工事件数は多いけれども、規模が小さいため、体力と精神力に自信がある若い人は、初期に災害派遣を経験されたら良い

と思います。

大牟田市の職員はまじめで年次休暇を取らず頑張っています。お世話になった、災害復旧対策室をはじめ大牟田市の職員の方々、及び北九州市危機管理室の職員の方々に御礼申し上げます。

6. 解散式



令和5年3月25日
災害復旧室の解散式が行われ
大牟田市長をはじめ38名の
関係者が出席しました。